

# デンソーの自動運転開発、データ分析工数8～9割減 AIで

2023/09/14 11:00 日本経済新聞電子版 939文字

デンソーが自動運転の開発効率を高めている。人工知能（AI）や協業するNTTデータの技術を活用し、様々な危険な状況を想定するためのデータ分析の工数を8～9割減らす体制を整えた。自動運転は各国の規制の動向や変更に合わせて、膨大な分析が必要になる。迅速な開発体制を整えて、自動車メーカーへの提案力を高める。



自動運転の制御ソフトを開発するデンソー子会社で、同じトヨタ自動車グループのアイシン、アドヴィックス、ジェイテクトも出資するジェイクウッドダイナミクス（東京・中央）が手がける。

自動運転の開発で重要な要素は2つある。まず事故を防ぐため、デンソーグループで取得した100万キロメートルに及ぶ実車走行データから、検証が必要な状況を抽出することだ。

例えば「高速道路で別の車が割り込むシーン」など、従来は分析担当者が特定の状況についての画像や動画のデータを高精度で絞り込んでいた。これをAIで自動化し、従来に比べて9割の工数を減らせる開発手法に変えた。

もう一つは人間の運転手が予見しにくい危険な状況をあらかじめ想定すること。NTTデータの子会社で、ジェイクウッドも出資するNTTデータオートモビリティジェンス研究所（横浜市）の技術を使い、一つのシーンに交通状況や天候といった様々な外部要因を加味した複数のシナリオを自動で生成できるようにした。従来に比べ、8割強の工数を減らせるという。

ジェイクウッドの隈部肇社長は自動運転技術について「適用しなければならない未知のシーンは増え続け、開発に終わりはない」とし、効率化に力を入れる。

交通状況は国によって異なり、法規制や新たな車部品の登場でも想定しなければならない状況は増える。隈部氏は「自動運転の開発のゴールは完成車メーカーや法律が決める」とした上で、「技術的にあらゆる状況に素早く対応できるようにするのが我々の役割だ」と説明する。

自動車産業ではソフトウェアがクルマの機能や価値を左右する潮流が強まっている。隈部氏は10月1日付でトヨタ子会社で、車載基本ソフト（OS）などの先進技術を手がけるウーブン・バイ・トヨタの最高経営責任者（CEO）に就く予定だ。ウーブンは自動運転技術の開発も担い、今後は次世代モビリティでの実装の手腕を問われる。

（須賀恭平）

許諾番号30096632 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.